

倶楽部 趣味

猟に釣りに、自然の中では 集中力が大切。

(西三河支部)
中部保全株式会社
工場長

廣野 勝美 さん



幸田町にある中部保全(株)エコプラザ(額田郡幸田町坂崎字と荒子26)で、勤続15年のベテラン工場長の廣野勝美氏から多彩な趣味について伺いました。

■**猟友会に入っておられ、猟が趣味と伺いましたが、猟友会とはどんな会なんですか？**

廣野 猟友会とは、仲間との親睦を深めつつ安全狩猟を心掛けながら活動する会です。また、獲るだけの狩猟ではなく、キジやヤマドリ等の放鳥事業を通じて野生獣保護・増殖を図ったり、有害鳥獣の駆除事業を実施して野生鳥獣の個体調整に尽くす等社会的な貢献もしている会です。その猟友会と私が出会ったのは家の隣の人が猟をやっている、一緒に連れて行ってもらった事がきっかけです。

■**猟友会という名前は聞いたことがありましたが、幅広い活動をなさっている会なんですね。キャリアはどれくらいですか？**

廣野 38歳のころからなので、ちょ

うど20年になります。

■**猟というと猟銃を持って山に入り、イノシシやクマ、鳥などを撃つという印象ですが、主にどんな獲物を狙ってらっしゃるんですか？**

廣野 出てくればイノシシなども撃ちますが、私は鳥猟で、キジやヤマドリを狙っています。鳥猟と獣猟では使用する弾が違うんですよ。

■**そうなんですか、獲物によって弾が違うとは想像もしていませんでした。廣野さんが使用されているのは、どんな猟銃ですか？**

廣野 私が使用しているのは散弾銃です。弾は小さな薬莖の中に散弾が200~300個入っていて、それが一度にはじけるといいます。

■**散弾銃という名前の意味が分かりました、ありがとうございます(笑)。獲物は召し上がるんですか？最近ではジビエ料理といわれる、狩猟によって獲得した野生の鳥獣肉を利用した料理が注目されているのでタイムリーですよ。**

廣野 そうですね、鳥はあまり聞きませんがシカやイノシシは注目されていますね(笑)。凝ったものではありませんが獲物は食べますよ、鴨も撃ちますしね。ただ料理と言っても、鳥はシンプルに塩コショウで食べる

のが一番おいしいです。イノシシの場合は鍋がいいですね。

■**伺っているだけでおいしそうでおなかが減ってきます(笑)。猟はお仲間と行かれるんです？**

廣野 鳥猟は一人でも行けますし、仲間と行くこともあります。パートナーは犬ですね、犬がいてくれないと猟になりません。鳥猟は犬が鳥を追い立てて飛ばしたところを撃つんですよ。手順としては、まず犬が巣を見つけると近くで止まるので、それを確認して合図をすると犬が追い立てて、飛び立つ鳥を私が撃つという犬との共同作業です。

■**猟友会では仲間との親睦を深めつつとありましたが、犬との親睦も大切なんですね。猟はどのあたりでなさるんですか？**





廣野 近場だと幸田の山でもできますし、新城、設楽などへも行きます。遠いところでは長野県との県境くらいまで行きます。猟には県ごとに許可が必要です。もちろん許可をとれば全国どこでもいけますが、私は愛知県だけしかとってないので県をまたぐことはありません。

■自然の中での趣味があることでストレス解消にもなるんでしょうね。

廣野 そうですね、少し変わった趣味ですがストレス解消できますよ。ほかにも猟仲間にはクレー射撃をやってる人もいますね。

■お仲間も幅広い趣味をお持ちなんですね (笑)。廣野さんは鳥猟のほかにも釣りに凝ってるそうですが、どんな釣りですか？

廣野 海釣りです。といっても堤防釣りなので黒鯛の47cmが最高くらいです。

■海釣りなんですね、海はどちらに行かれるんですか？

廣野 西浦とか佐久島、名古屋港の方にも行きます。狙いは黒鯛です。黒鯛は1年中釣れるのでメインで狙っているんですが、なかなか釣れません。

■黒鯛って堤防で釣れるんですか？

廣野 そうなんですよ、黒鯛は堤防でも釣れるんですよ、夏場だと堤防でキス、秋口にはハゼなんかも釣れます。

■猟といい釣りといい、何かをヒットするものに魅力を感じてらっしゃるんですね、今でいう肉食系ですね。

廣野 そうですね、肉食系…気に入りました (笑)。

■どちらも集中力がかなり必要そうな印象を受けますね。

廣野 特に猟はそうですね、猟銃は弾が入ってなくても銃口を人に向けることは絶対にできませんから、そういった点でも細心の注意が必要になります。それに鳥を撃つときは、鳥そのものを狙っても弾は当たりませんから計算も必要になります。鳥が飛び立って進むことも計算して、少し前を狙うという駆け引きみたいなものも必要なんです。鳥を見ながらまともに狙うと鳥の後ろを弾が通過してしまいます。散弾銃を使って、それなりの計算をしてもなかなか当たりませんから難しいです。

■頭も体も使うスポーツなんですね。これまでは未知の分野だったのでわかりませんでした、今日お話を伺って少しわかってきた気がします。

廣野 そうですね、銃と弾で7キロくらいの重さを背負って山の道なき道を進みますから、かなり体力は必要です。それに銃を撃つときの衝撃も相当です。なかには銃を撃つときの衝撃で鎖骨を折る人もいます。私も最初の頃はアザになってい

ました。それに銃を持つ、猟をする、山で使うアマチュア無線の資格を取るなど勉強もしました。

■体力に知力…伺っているだけでハードさが伝わってきます。

廣野 山は11月15日から2月15日までの3カ月しか入れないので、猟はその間に楽しめます。そのほかの期間は釣りですね。ただ今後は猟はやめようと思っています…特に理由はありませんが、東日本大震災で東北にボランティアに行つて決めました。

■では今後の趣味は釣りが中心ということですか？

廣野 はい、趣味は釣りです…と答えることになりますね。釣りは一人で好きな時に行って、好きな時に帰って来られますしね。釣った魚の料理も自分でしますから、手軽に楽しめそうです。

猟、釣り、とても趣味が充実されている廣野氏からお話を伺いました。お忙しいところありがとうございます。今度は釣りの話をゆっくりと伺ってみたいです。

